

## 和歌・俳句から見るふくしま

県内には「白河の関」「信夫文知摺」「会津嶺」など、古来より歌に詠まれ、よく知られた歌枕が数多くあります。

江戸時代には松尾芭蕉が弟子の曾良とともに東北・北陸の歌枕の地を巡り、『奥の細道』を著しました。

芭蕉の足跡を辿りつつ、福島を詠んだ名歌とともに、福島の歌枕についての資料をご案内します。

Rがついているのは、図書館の中でご覧いただく資料です。貸出していません。

### 白河の関

都をば 霞とともに 立ちかど 秋風ぞ吹く 白河の関 (能因法師 後拾遺和歌集)

都を、春霞が立つのとともに出発したが、いつのまにか秋風が吹く季節になってしまったことだ。この白河の関では、『新日本古典文学大系』岩波書店・以下同)

『奥の細道』は、「月日は百代の過客にして」という有名な冒頭の少し後に、「春立てる霞の空に、白河の関越えん」との一節が続きます。芭蕉の脳裏にはこの歌があったことでしょう。「白河の関」は、みちのくをイメージする代表的な歌枕です。

白河市史 第10巻 各論編	白河市/編	白河市	1992	L215/S4/3-10
白河の関	金子誠三/著	昭和堂出版部	1988	L291.5/K4/3
白河の関	金子誠三/著	FCTサービス出版部	1974	L018.6/F3/5
みちのく文学散歩	NHKみちのく文学プロジェクト/編	日本放送出版協会	1995	L910.2/N4/1
おくのほそ道を歩く	田口恵子/著	歴史春秋出版	2003	L081.6/R1/89
ふくしまの本	企画室コア/編	福島中央テレビ	1980	L291.09/F11/1

### 会津嶺

会津嶺の 国をさ遠み 逢はなはば 偲ひにせもと 紐結ばさね (万葉集 卷第十四 東歌)

会津嶺のある国が遠くて逢えなくなったら、偲ぶよすがにするように、衣の紐を結んでください。

須賀川に入った芭蕉は、「左に会津根高く、右に岩城・相馬・三春の庄、常陸・下野の地をさかひて山つらなる」と周辺の景色を見渡しています。「会津嶺」は、広義には会津の山々という説もありますが、磐梯山を指すといわれています。

万葉集釋注 7	伊藤博/著	集英社	1997	911.124/I1/1-7
会津文学碑散歩 増補	星勝/著	会津文化財調査研究会	1991	L910.2/H1/2
みちのくの文学風土	伊達宗弘/著	銀の鈴社	2003	L910.2/D2/1
私の詩歌遍歴	今泉壮一/著	福島民報社	1993	L910.4/I1/1

## 安積沼

陸奥の 安積の沼の 花かつみ かつ見る人に 恋ひやわたらむ (よみ人しらず 古今和歌集)

陸奥国の安積の沼の「花かつみ」よ、その「かつ見」という名のように、一方では逢っていないながらも、遙かに遠いあの陸奥国から都を恋い慕うようにわたくしはあの人を恋いつづけることになるのでしょうか。

「花かつみ」は、「安積沼」の名物として都へ広く伝わっていましたが、それがどんな花なのかについては様々な説が唱えられてきました。芭蕉も幻の「花かつみ」を尋ね歩き、結局目にする事は出来なかったようです。現在、郡山では「花かつみ」を「ヒメシャガ」として、市花に制定しています。

R	郡山市史 第1巻		郡山市	1975	L213/K3/1-1
	日和田の歴史探訪	森合茂三郎/著	森合茂三郎	1976	L213/M2/1
	萩姫伝説とその時代	今泉正顕/著	歴史春秋	1996	L213/I1/1
	郡山の歴史	郡山市/編	郡山市	2004	L213/K3/5

## 安達原

陸奥の 安達の原の 黒塚に 鬼こもりと 聞くはまとか (平兼盛 拾遺和歌集)

陸奥の安達の原の黒塚に、鬼が隠れ住んでいる、というのは、ほんとうか。

安達ヶ原は古くから鬼女伝説が伝わる地です。芭蕉も旅の途中、「黒塚の岩屋一見し」福島へと向かっています。「黒塚の岩屋」は、奇岩・巨岩の重なり合う、かつて鬼婆が潜んでいたといわれる場所です。

	安達郡案内	安達郡/編	安達郡	1911	L291.2/A2/1
	日本昔噺	巖谷小波/著	平凡社	2001	388.1/I2
	福島県安達が原 鬼婆物語	朝倉悠三/著	朝倉悠三	[1970]	L726.5/A1/1
	みちのく安達ヶ原のオニばば	朝倉悠三/絵・文	福島民報社	2005	L726.7/A3/1

## しのぶもぢずり

陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆへに みだれむと思 我ならなくに (河原左大臣 古今和歌集)

遙かに遠い陸奥国の信夫郡で作る忍草の摺り染めの紋様が乱れているように、あなた以外の誰かのために思い乱れるのかと思うような、そんなわたくしではありませんよ。

『奥の細道』に「しのぶもぢ摺の石を尋て、忍ぶのさとに行。」とあるとおり、文知摺石は芭蕉の旅の目的の一つでした。この石には左大臣源融と虎姫の悲恋伝説が伝わっており、また石の上に絹を当て、草木の汁を摺りこみ模様を染めた「しのぶもぢ摺」という織物が、天智天皇の頃からこの地の名産として知られていたといえます。芭蕉が文知摺石を訪ねたのは旧暦5月2日。石にまつわる伝承を踏まえ、田植えする人の手つきに、昔、絹を染めた手つきがしのばれると詠んだのが、有名な

早苗とる 手もとや昔しのぶ摺  
の句です。

	しのぶもちずり	横山玄彰/著	安洞院	1908	L291.1/Y2/1
R	信夫文字摺之記	山口道賀/編	山口道賀	1908	L291.1/Y1/1
	西行の研究	高城功夫/著	笠間書院	2001	911.142/S1
	ふくしまの伝説(ふくしま文庫28)	岩崎敏夫/著	FCTサービス出版部	1976	L081.6/F3/28

## ほかにも・・・(芭蕉が訪れていない歌枕)

### 勿来の関

吹く風を なこそその関と 思へども 道もせにちる 山ざくらかな (源義家朝臣 千載和歌集)

「来る<sup>なか</sup>勿れ」という名のこの勿来の関には、花を散らす風も吹くなかれと思うのだが、道も狭くなるほど一面に散ってくる山桜だなあ。

「勿来の関」は、「白河の関」「念珠が関(山形県)」とともに奥州三関と呼ばれています。

勿来の関の文学碑	青天目武夫/編著	青天目武夫	1998	L910.2/N1/2
名歌のふるさと勿来の関	蛭田耕一/著	いわき歴史愛好会	1988	L291.8/H1/3
勿来の関なるほどハンドブック	「時を旅する交流事業」実行委員会/編	「時を旅する交流事業」実行委員会	[2003]	L291.8/T12/1
いわき文学碑めぐり	佐藤喜勢雄/著	いわき市観光協会	2002	L910.2/S9/1
R 勿来の関と源義家	佐藤一/著	勿来関研究会	1956	L291.8/S4/1
いわきの文学散歩	零石太郎/著	第二巧版印刷	1987	L910.2/S1/3
みちのくいわきふるさと発見	蛭田耕一/著	いわき歴史愛好会	1988	L291.8/H1/2
いってみっぺ勿来	蛭田耕一/著	いわき歴史愛好会	1992	L291.8/H1/4
写真集明治大正昭和勿来	零石太郎/編	国書刊行会	1980	L291.8/S8/1

### まの かの 真野の草原

陸奥の 真野の草原 遠けども 面影にして 見ゆといふものを (かさのいらつめ 笠女郎 万葉集 巻第三)

陸奥の真野の草原、遠いけれども面影に浮かんで見えるというのに。

この時代「陸奥の真野の草原」は、遠いものの象徴でした。「みちのくの真野」とは、現在の南相馬市鹿島区の真野川流域一帯を指します。

歌人 松田亨先生と浜通り万葉東歌の世界	荒明/著	荒明	1983	L911.1/A19/1
R みちのく真野万葉植物園物語	木幡正俊/著	西方会館	1991	L470.7/K2/1
R みちのく真野万葉植物園	解説書作成委員会/編	鹿島町観光協会	1991	L470.7/K1/1
相双歴史散歩	植田龍/著	歴史春秋出版	2003	L291.9/T2/1
目でみるいわき双葉相馬新風土記	浜通り新風土記編纂会/編	国書刊行会	1988	L291.8/H3/1

## その他

### 県内の歌枕を調べる本

歌枕とうほく紀行	田口昌樹/編	無明舎出版	2004	911.102/77042
ふくしまの文学碑(ふくしま文庫30)	岡部俊夫/著	FCTサービス出版部	1976	L081.6/F3/30
おくのほそ道を歩く(歴春ふくしま文庫89)	田口恵子/著	歴史春秋出版	2003	L081.6/R1/89
福島県風土記〔本篇〕		旺文社	1995	L291/O1/1-1
奥の細道を行く	読売新聞社宣伝部/編	読売新聞社販売局	1988	L291.09/Y3
福島の伝説	石川純一郎,竹内智恵子/著	角川書店	1980	L388/I2/2
おくのほそ道の世界	横井博/文	大日本図書	1990	L911.3/M1/3
ふくしま芭蕉紀行	永塚功/著	おうふう	1994	L911.3/M1/7
おくのほそ道 福島県探勝記	猪狩三郎/著	歴史春秋出版	2003	L915.5/I2/1

## 県内の「奥の細道」関連本

	週刊おくのほそ道を歩く12 白河の関		角川書店	2003	L291.09/K18/1-6
	週刊おくのほそ道を歩く14 須賀川・二本松		角川書店	2003	L291.09/K18/1-7
	週刊おくのほそ道を歩く19 飯坂温泉		角川書店	2003	L291.08/K18/1-8
R	辺土の行脚 「奥の細道」福島県内の道程	菊地和美/編	菊地和美	2006	L915.5/K2/1
	芭蕉と茂吉の山河	皆川盤水/著	東京新聞出版局	2000	L911.3/M18/8
	おくのほそ道 芭蕉と須賀川		須賀川市	1998	L915.5/S4
	奥の細道なぞふしぎ旅 上巻	山本鋳太郎/著	新人物往来社	1996	L291.09/Y4
R	奥の細道 芭蕉と曾良を医王寺、案内した人について	佐藤久右衛門/著	佐藤久右衛門	1990	L915.5/S3
	奥の細道須賀川	須賀川市教育委員会/編	須賀川市教育委員会	1989	L915.5/S2
	奥の細道写真集	岡崎仁/著	黒肆黒詩社	1989	L291.09/O6
	松尾芭蕉紀行300年 おくのほそ道	青葉ゆたか/著	すげの化成	1989	L915.5/A2
	奥の細道みちのく路33ヶ所めぐり	仏教文化通信編集部/編	仏教文化振興会	1988	L291.02/B1/1
	ふくしまの芭蕉	永塚功/著	笠間書院	1993	L911.3/M1/5
	おくのほそ道自然歩道 白河の関から伊達の大木戸まで	福島県民室/編	岩瀬書店	1971	L291.09/F3/4
R	「奥の細道」と須賀川	須賀川市図書館/著	須賀川市図書館	1963	L915.5/S1/1
R	須賀川と俳聖松尾芭蕉	安藤伝/著	安藤伝	[1971]	L915.5/A1/1
	福島県内 芭蕉の句碑と塚	安藤伝/著	安藤伝	1978	L911.3/A10/1
R	福島県版・おくのほそ道自然歩道	福島県民室/編	福島県	1970	L291.09/F3/4-2
	奥の細道をたどる 上巻	井本農一/著	角川書店	1956	915.5/i

## インターネットで和歌を調べる

二十一代集検索(和歌) (国文学研究資料館)	<a href="http://ocelot.nijl.ac.jp/dlib/21dai/">http://ocelot.nijl.ac.jp/dlib/21dai/</a>
二十一代集のデータベース。詞書・作者・和歌・左注・メモ等からの検索が可能です。	
二十一代集...天皇が勅命を出し、国家事業として編集された21の勅撰和歌集。	
(古今・後撰・拾遺・後拾遺・金葉・詞花・千載・新古今・新勅撰・続後撰・続古今・続拾遺・新後撰・玉葉・続千載・続後拾遺・風雅・新千載・新拾遺・新後拾遺・新続古今和歌集)	